

●海軍水雷學校條例

明治四十三年五月二十八日(勅令)
(二四四)

改正 大正二年三月二七號、七年八月三二二號消滅

海軍水雷學校條例

第一條 海軍水雷學校ハ海軍將校兵曹長上等兵曹及海軍特修兵
タルヘキ海軍下士卒ニ水雷術及電信術ヲ教授シ且其ノ改良進
歩ヲ圖ル所トス

第二條 海軍水雷學校ノ教育綱領ハ海軍大臣ノ認可ヲ經テ海軍
教育本部長之ヲ定ム

第三條 海軍水雷學校ニ左ノ職員ヲ置ク

校長

副官

教官

分隊長

軍醫長

主計長

前項ノ職員ノ外海軍尉官軍醫及主計ヲ置ク
第四條 校長ハ海軍教育本部長ニ隸シ軍紀風紀ヲ維持シ校務ヲ
總理ス

第五條 副官ハ校長ノ命ヲ承ケ庶務ヲ掌理ス

第六條 教官ハ校長ノ命ヲ承ケ教授ヲ擔任シ且水雷術及電信術

ノ研究調査ニ關スルコトヲ掌ル

首席ノ教官ハ前項ノ外校長ヲ輔佐シ教務ヲ監理シ校内ノ定期ヲ維持シ校長事故アルトキ其ノ職務ヲ代理ス

第七條 分隊長ハ校長ノ命ヲ承ケ隊員ノ紀律ヲ維持シ之ヲ薰習訓練ス

第八條 軍醫長ハ校長ノ命ヲ承ケ醫務及衛生ニ關スルコトヲ掌ル

第九條 主計長ハ校長ノ命ヲ承ケ會計及給與ニ關スルコトヲ掌ル

第十條 第三條第二項ニ掲クル尉官ハ校長ノ指定ニ依リ教官又ハ分隊長ニ屬シ其ノ命ヲ承ケ服務シ軍醫ハ軍醫長、主計ハ主計長ノ命ヲ承ケ服務ス

第十一條 校長ハ部下ノ職員闕員中又ハ事故アリテ其ノ職務ヲ執ルコト能ハサルトキ他ノ部下職員ヲシテ其ノ職務ヲ代理セシムルコトヲ得

第十二條 海軍水雷學校ニ第三條ニ掲クル職員ノ外海軍兵曹長同相當官准士官下士卒及判任文官ヲ置キ各上官ノ命ヲ承ケ服務セシム

第十三條 海軍水雷學校ニ於テ修習スル准士官以上ヲ海軍水雷學校學生ト稱シ海軍特修兵タルヘキ下士卒ヲ海軍水雷學校練習生ト稱ス

第十四條 海軍水雷學校學生ハ之ヲ左ノ三種ニ區別ス

一 普通科學生

二 高等科學生

三 特修科學生

第十五條 海軍水雷學校學生ハ左ノ區別ニ從ヒ將校ニ在リテハ海軍大臣、兵曹長及上等兵曹ニ在リテハ在籍鎮守府司令長官

之ヲ命ス

一 普通科學生ハ海軍中尉又ハ海軍少尉候補生任命後二年以上ヲ經タル海軍少尉

二 高等科學生ハ海軍大學校乙種學生教程ヲ卒業シタル海軍尉官

三 特修科學生ハ特ニ水雷術又ハ電信術ヲ修習セシムル必要アルカ又ハ其ノ修習ヲ志願スル海軍佐尉官兵曹長上等兵曹

第十六條 海軍水雷學校學生卒業シタルトキハ之ニ修業證書ヲ授與ス

第十七條 校長ハ學生中不適當ト認ムル者アルトキハ之ヲ海軍教育本部長ニ稟申ス海軍教育本部長至當ト認ムルトキハ將校ニ在リテハ之ヲ海軍大臣ニ具申シ兵曹長及上等兵曹ニ在リテハ之ヲ在籍鎮守府司令長官ニ移牒ス海軍大臣又ハ鎮守府司令長官ハ之ニ退學ヲ命スルコトヲ得

第十八條 海軍水雷學校練習生ニ關スル事項ハ海軍大臣之ヲ定ム

第十九條 校長ハ海軍教育本部長ノ認可ヲ受ケ學生及練習生ヲ軍艦、海軍諸學校又ハ海軍工廠等ニ派遣シ修學セシムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ派遣セラレタル學生及練習生ハ其ノ修業ニ關シ當該艦長又ハ廳長ノ指揮ヲ受ク

第二十條 海軍大臣ハ戰時又ハ事變ニ際シ必要ト認ムルトキハ學生ヲ退學セシムルコトヲ得

第二十一條 海軍大臣ハ海軍豫備員及海軍豫備員志願者ヲシテ海軍水雷學校ニ於テ必要ノ教授ヲ受ケシムルコトヲ得

第二十二條 海軍大臣ハ海軍水雷學校ニ臨時講習科ヲ設ケ海軍

佐尉官機關佐尉官造兵官兵曹長機關兵曹長上等兵曹上等機關
兵曹及下士卒ニ必要ノ講習ヲ爲サシムルコトヲ得

附則

本令ハ明治四十三年六月一日ヨリ之ヲ施行ス
當分ノ内海軍少尉候補生任命後一年六月ヲ經タル海軍少尉ニ普
通科學生ヲ命スルコトヲ得
當分ノ内海軍水雷學校ニ於テ海軍機關佐尉官機關兵曹長及上等
兵曹ニ電氣機關ニ關スル學術技藝ヲ教授スルコトヲ得
前項ノ場合ニ於テハ海軍工機學校條例ノ規定ヲ準用ス
従前ノ掌信證狀ハ海軍大臣ノ定ムル所ニ依リ當分ノ内仍其ノ效
力ヲ有ス

大正二年三月二十六日（勅令
二七）

海軍水雷學校條例中左ノ通改正ス

附則第三項及第四項ヲ削ル

附則

本令ハ大正二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス